

答え合わせ・解説

問1	答え 2 定期市	寺社はその権威と安全性を背景に、参拝者が集まる門前や街道の要所に定期市を開かせました。決まった日に開かれるこの市は、農村や都市の人々が物資を交換する場となり、経済の中心地として発展しました。
問2	答え 1 勘合貿易	足利義満が開始した勘合貿易は、明の皇帝が発行した証明書である「勘合」を所持した船のみが貿易を許可される仕組みです。これにより倭寇と区別され、円滑で利益の大きい貿易が可能となりました。細川氏や大内氏といった有力な守護大名がこの貿易の実権を争い、大きな利益を得ました。
問3	答え 4 応仁の乱	1467年に始まったこの戦いは、全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、日本全土に広がりました。これにより、室町幕府の権威は地に落ち、京都の街は焼け野原となりました。
問4	答え 4 枯山水	枯山水は、池や川などの水を用いず、白砂や石の配置によって、山水の風景や海、大自然の深淵さを表現する庭園様式です。見る人の想像力に訴えかける「わび・さび」の精神が重視されました。
問5	答え 1 七五調	二条河原の落書は、当時の世相に対する痛烈な批判を、当時の人々にとって馴染み深く覚えやすい「七五調」のリズムで表現しました。これにより、多くの人々に内容が伝わり、政治的な批判が庶民の間にまで浸透しました。
問6	答え 1 足利義政	足利義政は、政治への関心を失う一方で、禅宗の思想の影響を受けた「わび・さび」という独特の美的感覚を深めました。自らの山荘として慈照寺（銀閣）を建て、そこを拠点に東山文化を花開かせました。
問7	答え 3 富樫政親	当時の加賀国では、守護大名の富樫政親が教団の勢力を抑えようと対立を深めました。これに対し、1488年に門徒らが蜂起し、守護所を襲撃して政親を自害に追い込みました。
問8	答え 1 足利義満	義満は京都の北山に別荘として北山殿を造営し、その象徴として金閣を建てました。金閣は伝統的な公家文化と新興の武家文化を融合させた豪華な建物です。この建築様式は、義満の時代の文化を象徴するものとなりました。
問9	答え 4 戦国大名	戦国大名は、領民を直接掌握し、分国法を作るなどして独自の領地支配を行いました。彼らは城を拠点とし、軍事と行政を一体化させて、自分の領地を強く支配しようとしました。
問10	答え 3 土一揆	「土一揆（つちいっき）」は、経済的な困窮に追い込まれた農民たちが団結して起こした反乱です。特に、高利貸しを営む土倉や酒屋を襲撃して、借用書を破棄させる「徳政（借金の帳消し）」を幕府に要求しました。
問11	答え 3 応仁の乱	約11年間にわたって京都の市街地が戦場となり、寺院や屋敷が焼き払われました。京都の街は壊滅的な被害を受けましたが、一方で幕府の権威は地に落ち、全国で下剋上の風潮が強まることとなりました。
問12	答え 1 後醍醐天皇	武士の支持を失った後醍醐天皇は、足利尊氏と対立して京都を追われました。尊氏が京都に別の天皇を立てると、自らは奈良の吉野へ逃れ、そこで南朝を開きました。これ以降、京都の北朝と吉野の南朝が並立する動乱の時代が始まりました。
問13	答え 2 中国	中国は当時、非常に進んだ産業や文化を持っており、日本を含む諸国から製品が求められました。琉球王国などは、この中国と日本、あるいは東南アジア諸国の間に立って仲介役を果たすことで、大きな経済的恩恵を受けました。この物流のつながりが、当時のアジアの経済圏を支えていました。
問14	答え 1 徳政令	徳政令は、借金の免除を命じる法令のことです。幕府がこれを出すことで、農民や困窮した武士は借金の返済義務から免れました。正長の土一揆などの大きな一揆が発生した際、民衆の要求に応じる形で幕府が発布したのが有名です。
問15	答え 2 足利義満	明との貿易を望んだ義満は、明側からの「倭寇の取り締まり」という条件を受け入れ、勘合貿易を開始しました。これにより日本は多大な経済的利益を得ただけでなく、中国の文化や技術を取り入れるきっかけとなりました。
問16	答え 2 後醍醐天皇	後醍醐天皇は足利尊氏や新田義貞らの協力を得て鎌倉幕府を滅ぼしました。その後、天皇が権力を集中させる「建武の新政」を開始しましたが、武士の利益を無視した政策が多く、武士たちの反発を招きました。